

# 参考人発言要旨資料

社団法人全国腎臓病協議会

理事・事務局長

金子 智

## 2001 年度血液透析患者実態調査に見る HCV 抗体陽性者の実態

2005 年 3 月 31 日

社団法人 全国腎臓病協議会

財団法人統計研究会のもとで社団法人全国腎臓病協議会および社団法人日本透析医会が共同で行った全国の血液透析患者に関する実態調査(抽出調査)において、C型肝炎ウイルスの感染履歴を示す HCV 抗体陽性者の分布を見てみます。

### 1. 調査時点

2001 年 10 月 1 日

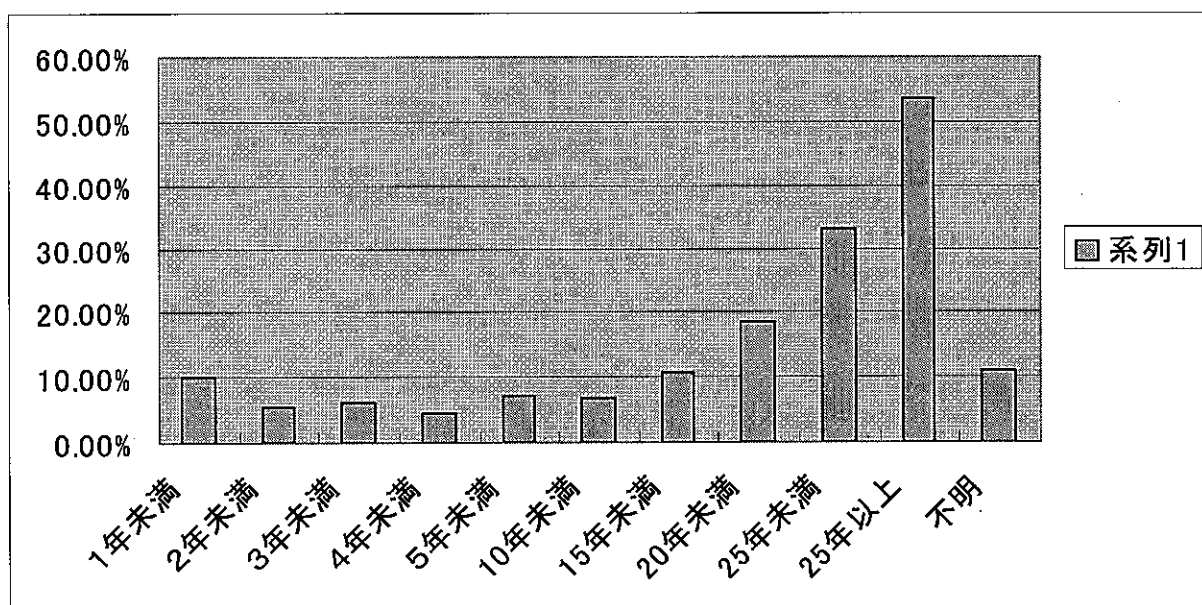
### 2. 調査対象者

2001 年 12 月 31 日現在の日本の慢性透析患者 219,183 人(日本透析医学会調べ)に対し、全国の患者会会員 100,488 人の中から会員名簿をもとにして 10%抽出法で選んだ 10,439 人の合併症について質問し、8,549 人について主治医からアンケート調査の回答を得ました。

### 3. HCV 抗体陽性者

1,142 人で回答数 8,549 人の 13.4%。

### 4. 透析歴別の HCV 抗体陽性者の頻度



| 1年未満   | 2年未満  | 3年未満  | 4年未満  | 5年未満  | 10年未満 | 15年未満  | 20年未満  | 25年未満  | 25年以上  | 不明     |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 10.10% | 5.50% | 6.30% | 4.70% | 7.10% | 6.70% | 10.60% | 18.50% | 33.20% | 53.40% | 11.10% |

## 5. 考察

この調査によると HCV 抗体陽性者は全透析患者の 13.4%存在すると推定されます。すると 2003 年末の透析患者総数 25 万人中 HCV 抗体陽性者は 3 万人余りと推定されます。

また、透析歴別に見た分布の特徴は、透析歴の長期化につれて増加し、透析歴 15 年以上で頻度が急増しています。25 年以上の超長期透析患者では 53.4%と半数を超えています。

造血ホルモンが投与される以前、腎性貧血の有効な治療法がなく、患者は輸血を多用しました。その際、患者は C 型肝炎ウイルスが特定され、検査法が確立されるまでの間、ウイルスの感染にさらされたものと考えられます。

さらに、最近の厚生労働科学研究などによると透析室での院内感染が常に起こっている確率が 0 でなく、その集積が長期透析患者に抗体陽性が発生する頻度にも何がしか寄与している可能性もあります。

今後、長期透析患者の増加で肝硬変、肝ガンの発生が増えることが予想され、C 型肝炎ウイルス感染者への適切な対応が必要と考えます。